

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2021年8月10日第9号 (通巻15号)
 オリーブの会
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453
 tel/fax:072-737-9454
 mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
 facebook;or ibunokai



ニザール・バナトの治安部隊による虐殺と

パレスチナ自治政府の危機

バナト氏の虐殺に抗議するパレスチナ市民

パレスチナ全体が、エルサレムの剣作戦で、占領軍に対する闘いの高揚に包まれていた。エルサレムの剣作戦は、エルサレムのシェイク・ジャラでの占領当局と入植者たちの住民の追い出しに対する闘い、アルアクサモスクの礼拝の妨害と礼拝者に対する攻撃に対する闘いで、48年領内のパレスチナ人を含むパレスチナ全体の怒りの爆発に対して、応えるものであり、これまでにない喜びを与えた。また、それは、パレスチナ自治政府のなにもなしえない無能をさらすことになった。

この高まりは、ガザ、西岸だけでなく、48年領内のパレスチナ人の抵抗闘争を拡大することになった。

こうした状況の中で、パレスチナ自治政府の治安部隊は、人権活動家で、自治政府を批判していたニザール・バナト氏を自宅で逮捕し、拘留先で殺害した。この事態に、パレスチナ各地での抗議行動が拡大した。パレスチナ人は、占領軍からの弾圧だけでなく、自治政府からの弾圧を受けている。ファタハは、こうした西岸各地での抗議行動の拡大に対して、自治政府の支持するデモを組織したが、パレスチナ世論は自治政府から離れてしまっている。自治政府が選挙の延期を決めた根拠の一つとしてある。

権力機関となった自治政府は、その権力を失うことを恐れており、その権力を批判するものには、弾圧を加え

ている。それは、ハマスの活動家だけではなく、人権活動家、メディアにまでおよんでいる。もちろん、ガザのハマスの場合、同様な傾向があることは否定できない。

エルサレムをめぐる占領軍との対決で、まったく存在感を示すことができなかった自治政府は窮地に追い込まれた。調査委員会を設置するなど、取り繕おうとしたが、批判は強まった。そのうえ、今度は、自治政府へ批判的なメディアを弾圧している。

米国、イスラエルは危機にある自治政府を維持するために支援を行っている。自治政府が権力維持に熱心なのは、イスラエル、米国の支援があるからである。ハマスをテロリストとして、排除したいために、自治政府を支持しているのである。今回の戦争での、ガザの復興基金も、ハマスの手にわたらないように、自治政府に引き渡すとしている。それは、パレスチナ分裂した状態にあることを望んでいる。

ガザのハマスは、エジプトを通して、イスラエルとの捕虜交換交渉をし、また、風船爆弾などでの抵抗を続けている。また、西岸では、ガザで行われていたナイト・コンヒュージョンが、ベイタでの入植地前哨基地に対する抗議行動で採用され、前哨基地を撤退させる結果が出ており、それに対して何もできない自治政府は、ますま

す支持を失う結果となっている。48年領内でも入植者の旗の行進に対して、パレスチナの旗の行進をするなど、抵抗闘争を強めている。

自治政府は、オスロのくびきから逃れられず、国際的な仲介による和平交渉に臨みをつなごうとしている。ネタニヤフ政権が終わっても、二国家解決を望まないイスラエル世論を背景に、右翼政権がつづくことは、明確である。そこには、展望がないことが明確である。

アッパースの外交は、トルコ訪問で明らかになったように、ハマスを支持しないようにということを求めるも

のであった。トルコは、カターールとともにハマスを支援している。

自治政府のこのような態度は、民族分断を助長し、パレスチナの民衆を占領軍の弾圧と自治政府の弾圧という二つの抑圧にさらすことになる。パレスチナ民衆の声は、イスラエルとの抵抗闘争をすすめることであり、パレスチナに何の利益ももたらさない「和平交渉」を望んではない。



ベネット政権の混乱、家族統合法の延長の敗北と入植地の拡大

ナフタリ・ベネット首相

ベネット政権は、7月6日に議会で家族統合法の延長に失敗した。この法律は、典型的なアパルトヘイト法で、パレスチナ人が家族統合するのを阻止する目的でつくられ、イスラエル内の右派は、この法律の延長をもとめており、極右であるベネット政権は、この法律の船長を図ろうとした。

しかし、クネセットでは、59対59という結果となり、過半数を得ることができず、廃案となった。ここに、イスラエル新政権の極右からアラブ政党まで含む脆弱な姿が示された。

家族統合法は、占領パレスチナ地域に住む18歳から35歳までの男性と18歳から25歳までの女性は、イスラエルの配偶者との家族統合を許されない。この年齢の人びとについては、修正法によって、イスラエルへの敵対活動（この言葉の定義は非常に広く、投石、デモその他の政治活動が含まれる）の疑いがある親族との家族統合も許されないことになった。

さらにこの修正法では、シリア、レバノン、イラク、

イランの4か国の「敵国」人配偶者との家族統合を禁止している。これは、例えば、イラクと米国の両市民権や米国とレバノンの両市民権を持つ配偶者との家族統合も禁止ということである。

この法律への批判にこたえる形で、「例外ケース審査委員会」が設置され、「人道的」見地から個別のケースが審査されることになった。この委員会は、国防省、総合治安局（シンベト）、人口登録局の代表など5人で構成される。

右から左、アラブまで連立する政権は、この法律に一致して延長を支持するわけではなく、賛成と反対が与野党を超えて錯綜しているものと思われる。

2003年から施行されている、イスラエルに住むアラブ系市民・住民がパレスチナ人配偶者に権利を拡大することを禁止する法令は6日、失効した。国会議員らはこの異論の多い措置を延長できなかった。

ナフタリ・ベネット首相はこの法令の延長を求めた

が、さまざまな考えを持つ者が集まっている連立政権の中で意見が分かれていた。ユダヤ人の左派とアラブ人の保守派の双方が強く反対していた。

6日朝、国会で投票が行われた。賛否は賛成59、反対59の同数で割れ、この措置は失効した。

連立政権を構成する8政党は、野党党首ベンヤミン・ネタニヤフ氏に対する共通の敵意以外では、ほとんど団結していなかった。ネタニヤフ氏は12年連続で首相を務めた後、先月彼らにその地位を奪われた。

パレスチナの第二次インティファダ（蜂起）のときに初めて制定されたこの法令は、支持者からは安全上の理由で正当化されていたが、批判者からはイスラエルの少数派アラブ人を対象とした差別的措置だと批判されてきた。

この法律は、典型的なアパルトヘイト法であった。

アパルトヘイトと迫害が行われているという結論は、東エルサレムを含むルダン川西岸地区とガザ地区からなる被占領地域の法的地位や、占領の事実関係を変えるものではない。

アパルトヘイトとは、もともと南アフリカ共和国に関して作られた用語だが、現在では普遍的に用いられる法律用語となっている。特筆するほど厳しい制度的差別や抑圧、すなわちアパルトヘイトの禁止は国際法の核となる原則の一つだ。1973年の「アパルトヘイト犯罪の抑圧及び処罰に関する国際条約」と1998年の「国際刑事裁判所に関するローマ規程」では、アパルトヘイトを3つの主要な要素からなる「人道に対する罪」と定義している。

1. 1つの人種の集団が別の人種集団への支配を維持する意図
2. 支配的な集団が周辺化された集団への組織的抑圧がなされている状況
3. 非人道的な行為

「人種の集団」とは、今日では、遺伝的特徴に基づく処遇だけでなく、1969年の「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」で定義されているように、民族的若しくは種族的出自に基づく処遇も指すと理解されている（第1条1参照）。ヒューマン・ライツ・ウォッチは人種についてこの広い定義を採用している。

ベネット政権は、入植地の拡大に力を注いでいる。

ベネット政権は、ネタニヤフ以上に入植地の拡大に熱心であり、実際に入植地を拡大する政策をとっている。ネタニヤフとの違いは、トランプが後ろ盾としていないことであり、バイデン政権は、消極的であり、ガンツ、

ラピドなどの中道に近く、内部からも矛盾を抱えている。人権団体である法的援助および人権センター（JLAC）は、イスラエルに対し、ヨルダン川西岸のナブルス近くに建設されたいわゆるアヴィアタール前哨基地から過激派入植者を直ちに避難させるよう要請した。

声明の中で、JLACは、パレスチナ人が所有するジャバルサビの土地に設置されたすべての集落の建物を無条件に撤去することにならない決定を「危険な前例」と見なししていると述べた。

エルサレム法務援助および人権センター-JLACは、パレスチナの先駆的な人権団体の1つです。JLACは、1974年にAmerican Friends Service Committee (AFSC) によって設立されました。以前はQuaker Service Information and Legal Aid Centerとして知られていました。1995年には、JLACの独立に向けた準備段階として地元の理事会が任命され、1997年にはセンターが正式にパレスチナの非政府および非営利団体になりました。今日、JLACは、誰が違反者であり、尊厳ある生活を送ることのどの側面が侵害されているかに関係なく、人権侵害の犠牲者を擁護する立場にあります。この点で、JLACは、イスラエル政府（エルサレム人の社会的および経済的権利を確保する場合）、イスラエルに代表されるイスラエルの占領軍による違反に取り組む際に、無料の法的援助、認識、および擁護/努力を提供します（彼らの家と土地のエリアCに住むパレスチナ人の確保に向けて）、およびパレスチナ自治政府（彼らの政治的所属または他の公の違反のために拘留または差別された人々を守るため）。

こうした批判に対してイスラエル政府は、前哨基地の撤去を決めた。しかし、軍事的・宗教的施設の建設をつづけるとした。

ジャバルサビとベイタの町では、ナイト・コンヒュージョンという夜の抗議活動などを通して、イスラエル占領当局に圧力をかけ続けた。

さらに、外相である中道派のラピドは、現在は、二国間解決の条件にはないと和平交渉への意図はないと明確にしている。和平交渉の再開に期待をかける自治政府とは、対照的である。イスラエルの世論は右傾化しており、労働党が政権にあった時代とは全く変わっており、イスラエル世論は二国間解決を望んでない。

家族統合法をめぐる新政府の混乱は、寄せ集め政権の弱さを示した。極右首相の思惑通りに動かないことも明白である。



自治政府を支持するファタハのデモ



ベイトでの占領軍との対峙



クフル・カッダムでの抗議行動

2021年7月3日に投稿 | 10:46 (PFLPのホームページからの訳出)

ムスタファ・イブラヒム

パレスチナ治安部隊の力による政治活動家ニザール・バナトの殺害に続いて、占領された西岸での現在の出来事に対してパレスチナ人が、気をとられている間、新しいイスラエル政府は、パレスチナの土地に新しい現実を押し付け、新しい入植地を確立しヨルダン川西岸の中心部、ナブルス近くのパレスチナのベイト村のジャバル・サビに建てた、いわゆる「イヴィアタール」入植地の前哨基地を合法化する手続きを完了しました。

ピースナウ運動の入植地フォローアップチームの責任者であるハギット・オフランによれば、この「入植地」では、「入植者が占領地でのイスラエルの政策を決定する」ことを証明している。イスラエル政府と入植者の間で、軍隊の兵士を収容する恒久的な建物と軍事基地を維持し、宗教機関がトーラ（イエシーパー）を教え、入植地を確立する目的で土地の調査を行うことが、合意されました。イスラエルの占領軍が入植地の確立に反対しているように見せようとしているにもかかわらず、これはそれが立場を表明するよりも誤解を招くように思われる。ヨルダン川西岸では占領軍が支配的であり、ここ数

年、入植地の前哨基地の設立が監視されてきました。イエディオト・アーロノス紙によると、昨年5月の初めから。前哨基地は、ネタニヤフ政府の支援とそれが黙って与えた承認の下で拡大し、入植しました。

新聞の政治アナリスト、ナダブ・エヤルは、入植者の指導者が前哨基地を設立しようとし、入植者のダニエラ・ワイスが政府との接触を主導して合意に達し、内務大臣のアイレット・シェイクがワイスと治安省と首相のナフタリ・ベネットを結びつけたと述べた。一方、ハアレツ紙の軍事アナリスト、アモス・ハレル氏は、違法な前哨基地で政府と入植者の間で合意が成立したと述べた。「イヴィアタール」は合意を反映するのではなく、後者の大勝利を告げている。ベネット・ラピッド政権の初期は、長い間知られていることをもう一度証明しています。入植者の指導者は国内で最も強力な圧力団体であり、政権交代とベンヤミン・ネタニヤフの任期の終了はこの状況を変えません。入植者の代表であるヨシ・ダガンとダニエラ・ワイスは、ナフタリ・ベネットとアイレット・シャクドを活性化するためにどのボタンを押すべきかをよく知っています。ほんの数日前にガンツが入植者の指導者たちに入植地はなく、前哨基地は退去するだろうと言ったように、入植者の利益のために、ベニー・ガンツ国防相は彼の省に対する影響力を失っていることが再び

判明した。ハレルによれば、ガンツは、ネタニヤフとの以前の強制的なパートナーシップよりも、この政府にそれ以上の喜びを期待していないことをすぐに発見しました。ちょうど先週、彼の政府のパートナーは潜水艦事件の調査委員会を結成する彼の試みを抑制しました、そして今彼らはガンツに前哨事件で降伏することを強制しています。ハレルによれば、ガンツが両方の場合に聞く主張は、新政府の内部バランスが微妙すぎて、すべての当事者に受け入れられない異常な手順で彼の任期の継続に危険をもたらすことは禁じられているということです。実際には、ベネットの利益を促進するための決定がなされ、その背景には彼のイデオロギー的な性向、セツルメント運動があります。

昨年5月末、国連人権理事会は、昨年4月以降に占領されたパレスチナ自治区と1948年の領土で犯されたイスラエルの人権侵害、および緊張の「深い原因」について国際調査を開始することを決定しました。人権理事会が所定の期間を指定せず、国内そして1967年に占領された地域でのパレスチナ人に対するイスラエルの体系的な人種差別の根本原因に対処する任務を伴う調査委員会を構成するのはこれが初めてであるため、この決定は重要であると私は考えます。今年の前半に、2つの重要な報告書が2つの人権機関によって発行されました。1つ目はイスラエル人権情報センター「B' Tselem」の報告であり、2つ目はアメリカの組織「HumanRightsWatch」の報告でした。2つの報告は、パレスチナにおけるアパルトヘイトの現実を裏付けています。今年の3月、国際刑事裁判所の元検察官であるファトゥ・ベンスーダは、パレスチナの状況に関する調査の開始を確認しました。

調査は、伝えられるところでは、2014年6月13日以来犯されている占領下の西岸での入植地の犯罪を含め裁判所の管轄内の犯罪を対象とします。これに照らして：イスラエルのアパルトヘイト政権がヨルダン川西岸を犯している時、内部危機にパレスチナ人が気をとられていた。そして、ヨルダン川西岸とそのプロジェクトと建設、入植地の合法化に対する私たちの共通の闘争を混乱させている。パレスチナ人がニザール・バナト殺害の犯罪の影響と公の自由の抑圧とパレスチナ政権の排除の問題の調査に要求されるものは、パレスチナ人が経験した危機、アパルトヘイト政権国家によって行われた毎日の殺害の問題を研究することを要求するものであり、毎日の逮捕、主に行政拘禁、家屋の破壊、パレスチナ人からの土地の没収の方針西岸の断片化、移動と移動の自由の制限、そして包囲、ガザとそれに課せられた制限に直面している調査は、裁判所の管轄内で申し立てられた犯罪を対象とします。

私たちに必要なのは、何が団結するのかを探り、あらゆる形態の共通の闘争のすべてのエネルギーを団結させ、ベイタの村で起こっているように、民衆闘争をエスカレートするレ培養器の存在です。ニダルは外交的および法的側面を取り、イスラエルの役人を起訴し、国際刑事裁判所で起訴すること、およびアパルトヘイト政権に立ち向かうための他の手段をとり、そして贈り物とエルサレムの剣で達成された民族的尊厳の勝利の積み重ねを完成させることであり、それを悪化する試みを止めることをとった。



2021年7月3日に投稿 | 10:47(PFLPのホームページから)

当時アラブの春と呼ばれた革命は、チュニジアで起こった灼熱の事件の後、2011年1月14日に始まりました。モハメド・ブアジジは、体系的なアラブの政治的断片化の境界を越えて、リビア、エジプト、シリア、イエメン

にまで及ぶことを実行しました。アラブの地理の統一と民族の運命の統一を強調した。彼は、イタリアのマルクス主義思想家グラムシが呼ぶ歴史的ブロックの大衆から噴出したこれらの人民革命、権威主義的な政治の悲惨さを感じる社会グループに属することに運命づけられました。

オリーブの会通信 第9号(通巻15号)

(注 2010年12月17日、モハメドはいつものように大通りで野菜売りの露商を行っていた。モハメドは店の常設許可を役所や大統領官邸に求めていたが、回答は得られなかった。当日、野菜と友人から借りた秤を政府の女性職員に没収された。さらに女性は、彼の父親を侮辱し、彼自身のみすぼらしさをあざわらい、平手打ちを食らわせた。その後モハメドは役所に秤の返却を求めたが、追い返された。役所に払う賄賂がなかったため、解決に至らなかったと言われている。

正午ごろ、モハメドは没収されなかった野菜カートとガソリンの入ったポリタンクを手に、再び役所前まで来た。彼は再び陳情をしようとしたが、役所の敷地内に入ることを拒否された。そこで彼は役所前の通りの真ん中に出て、自分とカートにガソリンをかけ、ライターで火をつけ焼身自殺した。従兄弟のアリ・ブアジジは大勢の群衆とともにそこにいたが、モハメドを止めることはできなかった。

18日午後、モハメドは搬送された病院で死亡した [11]。

アリは事件が起こった直後の現場を画像に収め、インターネットに投稿した。画像は直後の騒ぎを収めた別の画像とともに全国に広がり、モハメドを「中東革命の英雄的殉教者」と見なす者、彼を模倣し後追い自殺をする抗議者が現れるなど社会的波紋が広がった [12]。チュニア全土で大規模な反政府デモが広がった結果 [13][14]、2011年1月14日に23年間大統領の座にあったザイン・アル=アービディーン・ベン=アリーが国外へ逃亡し、ジャスミン革命が成立した [15]。

ジャスミン革命の成功により、民主化運動の波はエジプト、イエメン、リビア、バーレーン、アルジェリアなど中東及び北アフリカ諸国に波及 [16] し、アラブの春と呼ばれる運動となった。

(注2ヘゲモニー的な社会構造、またはグラムシの用語での「歴史的ブロック」は、社会集団、経済構造、および付随するイデオロギーの上部構造の特定の構成に基づいています。歴史的ブロックは、国家の強制的かつ官僚的な権威、経済領域における支配、および市民社会の合意された正当性を通じてヘゲモニーを行使します。グラムシは、歴史的ブロックという用語を使用して、さまざまな社会集団間の同盟を指し、さらに抽象的には、生産と手段の関係を安定させ再現する物質的、組織的、および論証的な形成の調整を指しました)

これらの革命は、民主的な雰囲気を作り出す運命にありました。それは専制的なアラブ政権を打倒し、彼らが提起したスローガンを達成するために大統領を打倒することに満足していません。起こったのはこれらの革命は政権を打倒せず、それは変わらなかったということです、しかしむしろ、政治的および安全保障の混乱の体制の生成をもたらしました。そこでは、国家は、アメリカとイスラエルの政治的、経済的および安全保障の影響を受けて、新しい中東に設立される国家の条件に対応する資格を得るためにそのヘゲモニーを失いました。

アラブの春の出来事を目撃したアラブ諸国は、政治的および安全保障上の安定を享受しておらず、依然として困難な内部状況に苦しんでいます。生活に反映され、そのため、民主主義の一般化のスローガンは、もはや民衆的歴史的ブロックの大衆の唯一の主要な要求ではありませんが、要求スローガンは変化の動機の大部分を占めました。裕福なアラブ湾岸諸国は、遺伝的な専制政権に直面して民主主義を必要としているにもかかわらず、アラ

ブの春に参加しないことは明らかでした。これらの人々に既存の政治的状况を受け入れさせる。それは、世界の帝国主義資本主義システムとのあらゆる形態の従属関係によって支配されています。

したがって、実際のアラブの大衆革命はまだ爆発していないことを認識しなければなりません。なぜなら、大衆運動は、この運動を指揮できる民族主義的および左翼的の指導者がいなかったからです。これは、いくつかの地域的および国際的な権力からの外部干渉の機会を与えました、そしてこの場合、人民大衆は変化の道具になりました。分散してエネルギーを再編成して動員するために多大な努力を必要としますが、これは2019年に行われたレバノンの抗議、つまり2年前の汚職、搾取、高価格、失業に直面しても完全には達成されませんでした。ランクにクラス混合が含まれていました。その一部には宗派主義的な傾向が蔓延しているため、この政治的および社会的状況の前で尋ねるに値する質問は次のとおりです。われわれは、民衆的歴史的ブロックの大衆からの新たな運動を待っているのか？それは、大衆化された民主主義と進歩的で左派の政治勢力の存在を強化し、スーダンがアルバシールの権威主義体制を打倒することによって目撃した抗議運動に起こったように、代わりにそれは権威主義的な軍事政権を生み出した。彼が民衆の軍隊と専門家の集まりを追い払うことができるとすぐに、彼は人種差別的で攻撃的なシオニストの実体に向かって屈辱的で恥ずべき正常化を促進しました。





イスラエル軍がUAWCの本部を封鎖

7月12日 5:10・

イスラエル軍が本部を襲撃した後のUAWCの声明

2021年7月9日

2021年7月7日水曜日の午前3時頃、イスラエルの占領軍はラマラ/アルビレにある農業労働委員会連合(UAWC)の本部を襲撃し、6ヶ月の本社の閉鎖を命じる標準的な軍事命令を残しました。侵入したとき、イスラエルの占領軍は私たちの入り口のドアを破壊し、オフィスを混乱させ、私たちの家具の一部を損傷しました。さらに、彼らは5台のハードドライブ、1台のラップトップ、デジタルビデオレコーダー、およびいくつかの本や文書を盗みました。

UAWCは、イスラエルの襲撃、私たちの事務所に与えられた損害、そして軍の閉鎖命令を最強の条件で非難します。この命令は非合法であり、明らかに政治的動機があります。組織全体を混乱させるために本社を対象としています。

襲撃と閉鎖の命令は、私たちの本部がパレスチナ自治政府の完全な管理下にある西岸のエリアAにあるという事実を考えると、パレスチナの主権に対する特に挑発的な攻撃を表しています。

私たちは別の事務所に移転し、エリアCの何千人もの脆弱なパレスチナの農民とその家族に対する義務とコミットメントを果たすために高い決意を持って仕事を続

けています。

イスラエルの襲撃と閉鎖の命令は、UAWCとパレスチナの市民社会全体に向けられたイスラエル政府とそれに関連する組織による積極的な名誉毀損と資金繰りのキャンペーンから切り離されているとは見なされません。これらのキャンペーンは国際NGOによって文書化されており、国連によって認識され、非難されています。

より具体的には、私たちの本部に対するイスラエルの襲撃は、イスラエル政府とそれに関連する組織からの圧力に応じて、オランダ政府が昨年UAWCに開始した「レビュー」と切り離して見ることはできません。この調査は、UAWCが何年にもわたってさらされてきた名誉毀損および資金繰りのキャンペーンに触媒効果をもたらし、エリアCでの作業を混乱させました。

UAWCはオランダのレビューに協力してきましたが、UAWCの側でこれまでに確立された不正行為や怠慢なしに、すでに組織、パートナー、受益者に甚大な被害を与えていることを無視することはできません。

私たちは、パートナーとドナー、特にオランダ政府に対し、UAWCに対するイスラエルの襲撃と閉鎖命令を非難し、イスラエル当局にその命令を撤回するよう圧力をかけ、組織の能力を回復できるよう呼びかけます。

そうすることは、イスラエルによるパレスチナの占領と併合を定着させ、自由、人権、尊厳を求めてパレスチ

オリーブの会通信 第9号(通巻15号)

ナ人を打ち負かすことを目的とした、エスカレートするイスラエルのキャンペーンや措置からパレスチナ市民社会全体を保護することにも関連しています。

イスラエルによる本部の襲撃と閉鎖に続いて、私たちは地元および国際的な市民社会組織と外交使節団から数え切れないほどの連帯の電話と電子メールを受け取りました。私たちは、UAWC に対するこれらの心強いサポートの表明に最も感謝しています。

さらに、UAWC を支援するすべての国際連帯および資金調達キャンペーンを心から歓迎します。これらはこの重要な時期に不可欠です。よろしくをお願いします。

2021年7月8日 オリーブの会の抗議声明

【緊急声明】

イスラエル占領軍による UAWC 本部への襲撃と6か月間閉鎖に抗議します！

7月7日朝、イスラエル占領軍がラマッラーにある UAWC (パレスチナ農業労働委員会連合) の本部を急襲し、コンピューターをはじめ、農民、農業技術に関わるデータなどを没収し、6か月間の閉鎖命令を出しました。

私たちオリーブの会は、イスラエル占領当局による UAWC 本部への襲撃と閉鎖命令に満腔の怒りをもって抗議いたします。

UAWC は、イスラエルの占領に抗しながら、パレスチナの農民の食料主権確立に向けた活動を行っていました。イスラエル占領体制は、1967年の占領以降、それまで基本作物の90%を自給していた西岸地区の農業を一貫して破壊してきました。オスロ合意以降も、西岸地区の61%がイスラエル占領軍の統制下に置かれるC地区とされています。そのC地区には、パレスチナの農業生

産を支える多くの農地が含まれ、パレスチナの農業生産の50%近くを生産する肥沃なヨルダン渓谷もその支配下にあります。またイスラエルは、パレスチナの水資源の85%以上をコントロールしています。さらにはパレスチナの人びとにとって、文化的にも・経済的にも重要で、食用品、石鹸、工芸品に利用されるオリーブの木は、1967年以降すでに80万本以上が燃やされ根こそぎに破壊されています。

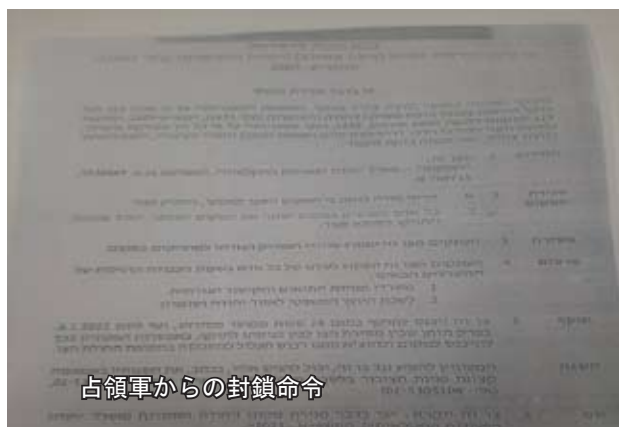
イスラエル占領当局は、このようにパレスチナの農業基盤を破壊し、パレスチナの経済を従属化に置く政策を一貫して行ってきました。

これに対し UAWC は、この間、パレスチナの農業・農民を守るために、「C地区に種を植えよう！」キャンペーンをはじめ、オリーブ収穫期のキャンペーン、パレスチナの地にあった天水農業に適する在来種子の保存、農業用貯水タンクやポンプの設置など、多くの事業を行い、パレスチナの食料主権確立に奮闘していました。

東エルサレムにおけるシェイク・ジャラでの住民追放、アルアクサー閉鎖などに抗議するパレスチナの人びとの闘いは、5月、ネタニヤフ政権によるガザへの空爆にもかかわらず、イスラエルの占領支配に対する、1948年領内・西岸地区・ガザ地区を貫く広範なものとなっています。

一方、イスラエルでは、4回の総選挙を経て、反ネタニヤフのみで一致した極右「ヤミネ(右翼)」のベネットを首相とする連立政権が6月13日に成立しました。ベネット新政権は発足して以降、ガザ空爆を4回実施し、西岸地区の各地でパレスチナ人弾圧を繰り返しています。ネタニヤフ政権と何ら変わることはない、人種差別主義的な占領政策を続けています。

私たちオリーブの会は、イスラエル占領当局による UAWC 本部襲撃と閉鎖に抗議するとともに、日本の人びとが一人でも多く、パレスチナの人びとの占領体制に抗する闘いに連帯するよう呼びかけます。



占領軍からの封鎖命令



事務所のなからみた封鎖された入り口



ハリダ・ジャラルの娘スハの死と イスラエル当局は葬儀への参列を阻止

ハリダ・ジャラルさんと娘のスハ

ハリダ・ジャラルの娘スハ死とイスラエル当局の葬儀
への参列の阻止
葬儀へのハリダのメッセージ

私はあなたがいなくて寂しいという理由だけで、私の子
供、とても苦しんでいます。

私はあなたがいなくて寂しいという理由だけで、私の子
供、とても苦しんでいます。

苦しみの深さから、私は手を差し伸べて
窓越しに祖国の空を抱きしめた

ハイファのダモン刑務所にある私の独房の
心配しないで、私の子供。

束縛と刑務官にもかかわらず、私は背が高く、しっかりと
立っています。

もう一度お会いしたいという思いから、私は悲しみの母
です。

これはパレスチナ以外では起こりません。

私が欲しかったのは、娘に最後の別れを告げることだけ
でした。

彼女の額にキスをして、私は彼女を愛していると彼女に
言う

私がパレスチナを愛するのと同じくらい。

私の娘、あなたの人生のお祝いに出席しなかったことを
許してください、

この悲痛で最後の瞬間、私はあなたのそばにいなかった。
私の心はあなたに会いたがっている空の高さに達しまし
た、

を介してあなたの額に愛撫し、キスを植える
私の独房の小さな窓。

スーハ、私の大切な人。

彼らはあなたに最後のさよならのキスを入札すること
から私を剥奪しました。

花で別れを告げます。

あなたの不在はひどく痛く、耐え難いほど痛いです。

しかし、私は堅実で強いまです、

最愛のパレスチナの山のように。

オフエル刑務所とダモン刑務所の前での他の集会 と協力して / ガザのアルシャベヤは投獄された戦 士ハリダジャラルとの支援スタンドを組織し ます

2021年7月13日に投稿 | 08:46

パレスチナ解放人民戦線は、月曜日の夜、ガザ市の赤
十字本部の前で、昨日、日曜日に娘のスハを失った獄中
の同志ハリダ・ジャラルとの支援スタンドを組織し
ました。彼女が彼女を最後に見ることを可能にするため
の占領の継続的な拒否、そしてこのスタンドは私の刑務
所オフアデーモンの前のスタンドと一致します。

指導者、幹部、戦線のメンバー、国軍およびイスラム軍
の囚人委員会の代表者、および解放された囚人が警戒に
参加した。

捕らえられた戦士、ウム・ヤッファ・ジャラルと彼
女の亡き娘スハの写真が掲げられました。

戦線中央委員会のメンバーであり、獄中者委員会の役
員であるアワド・アル・スルタン同志は、スピーチを行い、
娘のスハの死について、ウム・ヤッファ同志に心からの哀
悼の意と同情を述べ、継続について説明した。複雑で本
格的な犯罪で娘が亡くなったにもかかわらず、戦士のウ

ム・ヤッファを拘束するという占領のこと、そしてこの犯罪的な敵のファシストの性質を反映している。

スルタンは、娘のスハを最後に見るために、拘束された仲間の戦士、ウム・ヤッファ・ジャラールの即時釈放と彼女の拘禁の即時終了のためにあらゆる形態で圧力をかけ続ける必要性を強調した。

しかし、スルタン氏は、「この占領は犯罪的で忌まわしいものであり、故同志スハが母親に2年間会うのを妨げたものだ」と認識している。それは奇妙なことではなく、報復政策の文脈では彼は彼女の解放を遅らせるために戦士ジャラーに対して繰り返します。」

スルタンは、彼女が娘に別れを告げることができるように、捕虜の同志ウム・ヤッファ・ジャラールを解放するためにあらゆる形態の圧力を行使するために、国際赤十字財団にその責任を負うよう求めた。

彼は、彼女が娘に別れを告げ、彼女の最も基本的な人権を行使できるように、占領を迫って占領を迫る国際キャンペーンを拡大する必要性を強調した。占領に対する彼女の国民的闘争の背景であり、さまざまな形態の拷問と虐待にさらされた。

スルタンはスピーチの中で、母親が彼女に会うことを妨げられているこの犯罪に対する沈黙を考慮して、「この悲劇と出血している傷から自由と人権のスローガンを歌うこのグローバルシステムと人権機関はどこにあるのか」と尋ねました。娘は、この犯罪への粗野で率直で明確な参加者として。

イスラム聖戦運動のリーダーであるハビブは、同志のハリーダ・ジャラールを逮捕するという占領の継続を、イスラエルの人種差別的で攻撃的で非人間的な性質と調和し、戦士のジャラールを賞賛し、彼女を堅実で強いと説明し、この犯罪シオニストとの闘争と対立の分野で経験したと述べました私たちの人々とそのリーダーシップを屈辱しようとする努力を惜しまない敵、しかしそれは常に彼の計画に失敗し、私たちの人々は彼らの抵抗と闘争を続けています

ハビブは、戦士ジャラールは、この占領者、シオニストの敵に立ち向かい、世界、世界の自由な人々、人権団体、列国議会同盟に立ち向かうことに慣れている忍耐の道の専門家になったと付け加えた。この犯罪シオニストの敵に戦士ジャラールを解放するよう圧力をかけるか、少なくとも彼女の名誉ある女性の葬式に参加する。



人民戦線政治局のメンバー、偉大な作家であり戦士であるガッサーン・カナファニの暗殺49周年

2021年7月8日に投稿 | 12:32

ガッサーン・カナファニ

今日、7月8日は、1972年にベイルートの自宅の前で車を爆破され「イスラエル」爆弾に暗殺されたパレスチナの作家であるガッサーンカナファニの殉教の記念日です。。彼は人民戦線の政治局のメンバーであり、前世紀で最も著名なパレスチナ人とアラブ人の作家の一人でした。

ガッサーン・カナファニが登場する前は、肉眼で見るすべてのものの性質として、パレスチナは明確でしたが、1961年に彼の最初の短編集(ベッドの死No.12)をリリースした若い作家の出現で、パレスチナがより

明確になり、その物語は世界に近づいています。

何年もの間、今日でも、ガッサーン・カナファニの文学は、特に彼の暗殺がベイルートからパレスチナまで、40年以上前に書かれることになっていた物語の英雄的な終わりだったので、パレスチナの物語の重要な軸のままです。

彼の暗殺

ガッサーンカナファニは、1972年7月8日、彼の居住地であるレバノンの首都で殉教しました。「イスラエル」諜報機関(モサド)のエージェントは爆発装置を彼の車を

の中心に置き、ガッサンは彼の安全対策を講じる軍人ではなかったので、(モサド)は彼の体を追い詰めるのは簡単でした。

その体は、彼の心に最も近い若い姪のラミス・ナジム(19歳)と一緒に散らばっていました。彼は彼女に物語を書き、彼女の美しい機会に彼女に贈り物をしたので、彼の書いたもの(リトルランタン)は、ガッサンの手書きで出版された物語の1つであり、彼は子供を紹介し、彼女のような女の子に与えることができる最高のものは(物語)であることを彼女に示しています。

彼の人生と文学

殉教者ガッサン・カナファニは1936年に生まれました。彼がアラブ民族主義運動に所属し、パレスチナ解放人民戦線の創設に参加した36年間しか生きなかったのは、偶然の一致です。彼はフランス語や英語を含む多くの言語に堪能だったので、彼はその政治局のメンバーであり、そのためのメディアスポークスパーソンでした。ガッサンは、この件でレバノンに来たときに、パレスチナとその大義を紹介したときに出会ったデンマークの「アニー・ホーファー」と結婚しました。彼が彼女の中にいたように、彼女は彼の人生における彼の主要なサポートでした。

数年以内に、彼は重要な政治学に加えて、数十の短編小説を書き、数十の小説を出版しました。彼の後、偉大な文学の遺産を不滅にし、それが彼を現代のパレスチナ文学の創始者の一人、そしていわゆる「抵抗文学」の柱の一人にしました。

ガッサンは、彼の最初の作品がアラブの舞台で何千もの文学作品の中で彼らの道を進んだように、彼の出発から40年以上後、パレスチナ人の記憶の中で彼を不滅にした彼の創造性で彼自身の道を歩きました。

ガッサンは、彼が出版した最初の本の序文で、彼の短編集「ベッドNo. 12の死」について、次のように述べています。作家は、以前と同じように、単にそれを受け入れる必要があります。そして何度も - 物語を引き裂いて書き直すために、「ベッド番号12の死」は、彼女が道の始まりを自分で、執り成しなしで、調停なしで、そしてパスなしで見つけることができれば、彼女に道を見つけるように促します。”

ガッサン・カナファニは数十点の作品を出版しており、その中で最も有名なのは「ハイファに戻って」「太陽の男」であり、後に映画で表現され、「ウム・サード」、「悲しいオレンジの地」、その他多くの作品に加えてシリーズの最初の作品となりました。。

彼の人生は、彼の殉教、不完全な三部作の後に出版された3つの小説「The Lover」、「The Blind and Atrash」、「PlumNisan」を一緒に完成させる前に終わりました。

数年後、ガッサンは、クウェート、ペイルート、ダマスカス、イラクの間で、ナクバ後のすべてのパレスチナ難民のように、彼の長い苦しみまで、アッカでの彼の誕生とヤッファでの彼の人生と研究の間を移動しました。

近年、彼の人生は、アル・ハリヤ誌、アル・ムハラ新聞、アル・アンワル紙、アル・ライ誌の間で働いていたため、難民学校で美術教育を教えることと、ジャーナリズムや政治活動の間でいくつかの移行を目撃しました。そのうちの1人の編集長を務める場合もあれば、編集者兼ライターを務める場合もあります。その後、彼は安定した仕事をやめ、雑誌「アル・ハダフ」を設立し、その編集長となり、後に人民戦線から正式に発行されることを決定しました。

抵抗に関する文献

占領とその継続的な虐殺の下で、占領されたパレスチナから出現した。ガッサン・カナファニは世界にパレスチナの詩人を紹介し、彼はその最も偉大な詩人の一人と見なされているマフムード・ダルウィッシュの出現に大きな功績を残しました。1965年、ガッサンは彼の重要な本(占領下のパレスチナにおける抵抗の文学)を出版しました。これは著名な文学研究であり、パレスチナには著名な詩人や作家がいることを示す世界への紹介でした。Qasim, Mahmoud Darwish, TawfiqZayyad.

ナジ・アルアリ

ある年、殉教者のガッサン・カナファニは、アイン・アル・ヒルウェを含むレバノンのパレスチナ難民キャンプを訪れました。当時、壁に絵が描かれているのを見て、「ナジ・アルアリ」という青年に出会った。その時、彼は自分の絵を取り、クウェートから戻った後、ガッサンがペイルートから再発行したアル・ハリヤ誌に掲載することを決心しました。そのため、パレスチナとアラブの問題、そしてガッサン・カナファニの物語と文学を筆で表現した芸術家ナジ・アル・アリの誕生をのきかけをつくった。

ナジ・アル・アリは1948年、10歳の時にナザレに近いアル・シャジャラの村を追われ、レバノンのアイン・アル・ヘワ難民キャンプに収容されました。ハンダラはその時のナジと同じ年齢です。

当時のパレスチナ難民のほとんどは農民で、彼らにとって土地を追われるということは生命を奪われること

と同じであり、飢えとあらゆる抑圧のもとでの生活を強いられていました。

ナジは電気工学を学んだものの仕事がなく、芸術アカデミーに入り直すものの度々刑務所に入れられます。やがてクウェートの新聞社に勤めることになり、ここでハンダラのキャラクターは誕生しました。



ハンダラ

ナジ・アル・アリは1948年、10歳の時にナザレに近いアル・シャジャラの村を追われ、レバノンのアイン・アル・ヘフ難民キャンプに収容されました。ハンダラはその時のナジと同じ年齢です。

当時のパレスチナ難民のほとんどは農民で、彼らにとって土地を追われるということは生命を奪われることと同じであり、飢えとあらゆる抑圧のもとでの生活を強いられていました。

ナジは電気工学を学んだものの仕事がなく、芸術アカデミーに入り直すものの度々刑務所に入れられます。やがてクウェートの新聞社に勤めることになり、ここでハンダラのキャラクターは誕生しました。

私たちのものではない世界

ガッサーン・カナファニは、彼の人生において、子供たちとその際立った世界を愛していました。これは、1972年に暗殺された姪(ラミス・ナジム)との強い関係からも明らかです。

ガッサーンが1965年に彼の2人の子供、ファイズとライラに捧げた短編小説(A World Not Ours)を出版したときも、この関係は劇的に現れ、彼らと世界のすべての子供たちがより良い世界を夢見ていることを示しています。

パレスチナの詩 モハムード・ダルウィッシュ

私はあなたの名前で命じます

私はあなたの名前で命じます-マルセルハリーフエ-マフムードダルウィッシュ

詩は偉大な詩人マフムード・ダルウィッシュによるものです。YOUTUBEでMarcel Khalife

I pass by your nameを入力すれば曲を聴くことができます。

私が一人でいるとき、私はあなたの名前で命じます

ダマスカスがアンダルシアを通過するとき

ここでレモンがあなたに私の血の塩を照らしました

そしてここで風が私の馬から落ちました

私はあなたの名前で命令します、軍は私を包囲しません

私が最後の警備員であるかのように、国でもありません

または彼の執着を歩いている詩人。

残りの言葉

ダマスカスでは、鳩が飛ぶ

絹の柵の後ろ

ダマスカスでは、私の言語全体が一粒の小麦に書かれているのが見えます

メソポタミアの石で精製されたメスの針。

ダマスカスでは、アラブ馬の名前が刺されています

無知から復活まで、またはその後

金糸付き

ダマスカスでは、空は古い道を進んでいきます

裸足裸足

詩人は啓示、韻律、韻律のために何を必要としますか？

パレスチナ日誌

2021年7月1日

- ・イスラエル警察：アラブコミュニティのほとんどの犯罪者は、シンベトと協力している。
- ・占領軍は、ラマラ近くの軍事検問所で、ベイトからの二人の兄弟を逮捕した
- ・イスラエル政府は米国にエルサレムの領事館を開くの延期することを要求
- ・ガザでコロナで一人死亡、108人が感染
- ・占領軍南部ガザで農民たちを銃撃
- ・前哨基地エイヴィアタールの撤退は金曜日に
- ・法務省：ニザール・バナトの殺害は、物理的暴力によるもので、自然死ではない。
- ・カルキリヤの闘いで二人の若者が殺された。
- ・保険省：コロナ第四波はそこまで来ている
- ・占領軍は、ジェニンで、軍に発砲したという口実で3人の市民を逮捕
- ・目撃談：ヨルダン渓谷でイスラエル兵が刺されたということで負傷
- ・パレスチナでコロナで二人死亡、121人が新たに感染
- ・占領軍は、元議員で、エルサレムから追放されたアブタイルを逮捕
- ・ツバスから二人の若者を占領軍は逮捕した。
- ・セルビアは大使館をエルサレムに移すことを拒否
- ・外務省：家族の統合は、国際法で保障されたパレスチナ人家族の権利である。
- ・占領軍はベツレヘムの北西のプリシンでの建設の停止を通告
- ・トルコ議会議長は、エルサレムを防衛するための国際議会議をもつことを呼びかけた
- ・ガザ周辺の4つの入植地で、ガザからの焼夷弾風船の発射の結果、火災が発生

7月2日

- ・イスラエル保険省：コロナの第四波が拡がり始めた
- ・国連は、パレスチナ政府に差別なしにデモの安全をたもつことを呼びかけた
- ・占領軍の戦闘機は、ガザ回廊のカセムの拠点を爆撃
- ・ファイザーは、イスラエルのコロナワクチンの有効期限の延長の要求を拒否
- ・ベネットの脅し：我々は、必要とあれば、大規模な陸上侵攻も辞さない述べた
- ・ジャバル・サビでのナイト・コンヒュージョンの継続、数十人の負傷
- ・カファル・カッダムの抗議デモへの弾圧で、数十人が窒息
- ・カナダ外相、ジェラシ・キャンプのパレスチナ難民の状況を視察
- ・占領軍は、10億ドル以上の商品がガザに入ることを阻止した。
- ・「全パレスチナ人の集まり」は、ヘブロンでヨーロッパの代表団を受け入れた
- ・アルプスタンのテントでの祈りのあと衝突が起こった
- ・ジャバル・サビの衝突で窒息者、そして救急車が占領軍に攻撃された。
- ・ヘブロンで、入植者攻撃で、市民たちが負傷し、他が逮捕された
- ・ダワイカット：故ニザール・バナトの事件で14人が司法に言及された
- ・パレスチナでコロナで5人死亡、121人の新たな感染者
- ・ベイト・サファファで、ジアーダー族、彼らの家の破壊を強制され、非難する場所もなく夜を過ごした
- ・抵抗委員会：ベイト町の人々の勝利は、抵抗が占領者を追い出す方法であることを証明した
- ・赤新月社：ナブルスのベイトでの対峙で、294人が負傷した。
- ・ジャバル・サビからの入植者の撤退
- ・ウスリンの衝突で占領軍に青年が銃撃された
- ・占領軍は、シリワンの3人の市民を釈放した
- ・占領軍は、ハーン・ユニスに発砲
- ・赤新月社：ジャバル・サビの対峙で、4人の頭部への負傷を含む150人が負傷

7月3日

- ・ガザコロナ死者なし、75人が新たに感染
- ・ヨルダン5千万立法メートルの水をイスラエルから買う
- ・占領軍は、軍事検問で、ジェニンの青年を逮捕
- ・占領当局は、カタールの基金をガザに送付することを認めないことを決定
- ・米国陸軍は、その装備をカタールから他のアラブ国に移動している。
- ・イスラエルの貨物船、インド洋で火災
- ・クサラの町で、占領軍の銃撃で3人が負傷し、その一人が重症
- ・ラマラで、ニザール・バナトの死に抗議するデモ
- ・ヘブロンでファタハによって呼びかけられたデモに数千人が参加
- ・占領軍は、北部ヨルダン渓谷で市民にその土地にあるフェンスを取り除くように通知した。
- ・ハマスとイスラエルの交渉は失敗に終わった。

7月4日

- ・テルアビブ：イスラエルの貨物船の火災は、イランに責任がある
- ・占領軍は、ガザの複数の地点の攻撃を開始した。
- ・ナブルスの南で、占領軍によって青年が銃撃された
- ・パレスチナコロナで3人死亡、86の新たな感染者
- ・外務省は、殉教者ムハマドの処刑への国際捜査委員会を作ること呼びかけた。
- ・外務省：占領政府のアヴィタールの部分的、一時機撤去の合意は、それを合法化することを目的としている。
- ・61日間ハンストを続けている獄中者アブアトワンは、水を飲まないことを宣言した
- ・イスラエル新政府は、3か月ごとに入植地の建設を承認すると制約した。
- ・人権独立委員会は、活動家ファリド・アルアトラスの逮捕を非難した。
- ・占領軍は、弁護士アルアトラスをテナ検問所で逮捕の後病院に移した。
- ・ガザでコロナで2人死亡、56人の新たな感染
- ・占領当局は、殉教者カスラの遺体を引き渡すことを拒否
- ・ガザの労働者ベイト・ハヌウン検問所の前で仕事の機会を求めてデモ
- ・若い女性ヤスミン・ヤベールはヒズボラーと協同した罪で2年半の判決を受けた
- ・人民戦線は、意見の相違による被拘束者を釈放するように、呼びかけた。
- ・ガザの自治体は、アルージャラー広場とヤルムーク通りの下水管の交換工事を開始した。
- ・占領軍は、ヨルダン国境からの14丁以上の武器の密輸を摘発した。

7月5日

- ・入植者は、ジャルウド・アルーシャルキで農地に放火
- ・初めて、モロッコの闘機がイスラエルの空軍基地に着陸した
- ・占領軍耕部隊のガザの東への限定的な侵攻
- ・ナブルスの南の家で二人の青年を占領軍が逮捕した。
- ・数百人の入植者がベツレヘムの東の寺院を急襲した
- ・二回目のジャルウドの土地へ入植者が放火
- ・ヘブロンで占領軍は羊飼いを逮捕
- ・パレスチナでコロナで一人死亡、13人の新たな感染者
- ・占領軍イサウィヤで子供を逮捕
- ・ノルウェイの年金基金は、入植地に関連する16の会社から投資を引き上げた
- ・ガザコロナで、一人死亡、95人の感染
- ・ネタニヤフの汚職裁判が7月11日まで延期
- ・ガザで、被拘束者が死亡
- ・首相は、ラマラの集会で、すべての被拘束者の釈放を命令
- ・ナブルスのアンマン通りで若者が占領軍に銃撃された
- ・ジェニンナブルス道路の近くで入植者が市民の車に投石
- ・民族イニシアチブと解放された獄中者は、政治的拘束者の即時の釈放を要求
- ・占領軍は、ベイトのパレスチナ警察の尉官を逮捕

7月6日

- ・「シャムス」は、デモへの弾圧をやめることと拘束者の釈放を呼びかけた
- ・占領軍は、エルサレムの家族に彼らの家を解体することを強制した。
- ・イスラム基金：占領当局は、先月イブラヒムモスクの礼拝の呼びかけを46回妨害した
- ・MADA：6月にメディアの自由に対する123回の侵害があった
- ・元議員のアブティルを行政拘留に移管した。
- ・共同リストは、クネセツが家族統合法の通過に失敗したことを偉大な勝利と語った。
- ・アルブレイジ東の中央加工工場を抗議者が閉鎖
- ・アルミザンは、ガザでの被拘束者の死亡の調査を呼びかけ
- ・ガザ：検察官は、獄中者ノファルの死亡の調査の開始を命令
- ・エルサレムーシュファト難民キャンプに建設中の学校の破壊
- ・エルサレム人の代表団が民衆を支援するためにベイトの町を訪問した。
- ・大統領がイスラエル大統領に電話：我々は、我々の間の平和の達成を望む

7月7日

- ・南部ガザへのイスラエル機甲部隊の限定的侵攻
- ・民族イニシアチブは、シャタ・オデの逮捕とUAWCの閉鎖を非難し、国際社会に呼びかけた。
- ・ガザ、コロナで一人死亡、73人の新たな感染
- ・米国の要求で、イスラエルは獄中者モンタセル・シャラビの家の破壊を延期した
- ・市民団体は、シャタ・オデの逮捕とUAWCの閉鎖を非難
- ・ガザのファタハ、逮捕されたノファルの死についての沈黙を非難

オリーブの会通信 第9号(通巻15号)

- ・イスラエル、捕虜となっている4人の兵士の返還が、ガザの再建の条件である
- ・占領軍は、保険労働委員会のダイレクターを含む10人の市民を逮捕した。
- ・ベツレヘム南部で数百人の入植者が入植地通り60に展開した。
- ・イスラエル当局は、190回目のアルアルキブ村の破壊を行った
- ・パレスチナと日本は、コロナ後の観光共同への展望について話し合った
- ・PFLP 総司令部派のアハマド・ジブリル書記長が死去
- ・イスラエルの新大統領が就任
- ・占領裁判所は、人権派弁護士のアラド・アトラシの拘留延長を決定

7月8日

- ・占領軍は、獄中者モンタセル・アルーシャラビの家を爆破した。
- ・ハマス：獄中者シャラビの家の爆破は、野蛮な行為である
- ・米国大使館は獄中者シャラビの家の破壊を非難。一方的な措置は避けるべき
- ・ヤッファのハサン・ベイモスクが攻撃された
- ・ガザ、コロナで一人死亡と75人の感染
- ・ツパスの人民闘争戦線は、獄中者アブアトワンに連帯する大衆的なスタンディングを組織した。
- ・占領軍は、ヘブロン6人の市民を逮捕し、1万2千シェケルを押収した。
- ・クサラ、ジャバル・サビの衝突で、占領軍によって、37人が負傷した。
- ・バイデン政権は、アブラハム基金の諸活動を凍結した
- ・イスラエルは、5千万立方メートルの水をヨルダンに売ることに合意
- ・65日のハンストでガザンファールは、占領国家を打ち負かした
- ・イスラエル最高裁によるジャバル・サビの土地を所有者に戻す申し立て
- ・ナブルスの南のジャルウドの20ドナムの土地を占拠
- ・農業省UAW Cの閉鎖を非難

7月9日

- ・占領軍は、ジャバル・サビに通じるすべての道を閉鎖
- ・ヘブロン北東のサイールの二人の兄弟を占領軍は、逮捕した。
- ・赤十字：イスラエルのフサマ村の破壊は、人間の尊厳を揺るがすものである
- ・国連は、占領当局にパレスチナ人の財産の破壊と没収をやめるように呼び掛けた
- ・レバノンは、unifilの任期の延長を呼びかけた
- ・赤新月社：ジャバル・サビの衝突で実弾での8人の負傷を含む84人が負傷した。
- ・アルアクサで3万5千人が金曜礼拝を行った
- ・毎週のカフル・カッダムの行進の占領軍の弾圧で、窒息者が
- ・ジャバル・サビでの占領軍との衝突で負傷者
- ・ヘブロンでニザール・バナトの死亡の責任者を明らかにすることを求める集会が行われた

- ・パレスチナでコロナで81人の新たな感染者
- ・大統領は、本日トルコへの公式訪問を開始した。
- ・ヨシ・コーヘンがイスラエルのソフトバンクテレコム代表になった。
- ・極右関係者シャケド：我々は、入植地の凍結を行わないし、C地区の分類の変更をしない
- ・入植者たちが、ヘブロン近隣のジャベールの市民を攻撃
- ・ナブルス南部での占領軍と衝突で421人が負傷した。
- ・占領軍がジェニンの南で、モスクの所有物を燃やし、青年を銃撃した。
- ・48年領内のウンム・アルファム市でパレスチナの旗の行進が開始された
- ・シリワンの町で、数日前に商業施設が解体され、青年が占領軍に銃撃された

7月10日

- ・マールブ紙新たなガザへの侵略のための準備の詳細を明らかにした。
- ・ヨルダン渓谷、占領軍は、市民に土地のフェンスを取り除くように通告した
- ・ガザ南部で、占領軍は3人のパレスチナ人をナイフを所持していたとして逮捕。
- ・オマン：我々は、イスラエルと正常化する三番目の湾岸国にはならない。
- ・ファタハの招待で、数千人がラマラで自治政府を支持する行進に参加

7月11日

- ・イスラエル代表団が、ハマスとの捕虜交換の話し合いを終わらせるためにカイロに到着した。
- ・入植者が、キリベト・サラに電気を供給しているネットワークを破壊
- ・ジャバル・サビとクサラでの占領軍との対峙で、51人が負傷した。
- ・弁護士アルーアトラスが占領刑務所で、無期限のハンストを開始した。
- ・占領軍は、ホームセ・アルーファウカジュ民への人道援助が到着するのを妨害した。
- ・ガザの漁師が漁場の拡大を要求してデモ

7月12日

- ・イスラエル内閣は、パレスチナ引き渡す税収から5億9千7百万シェケルを引き渡さることを承認。獄中者の給料や殉教者の家族への給与に使われるとして
- ・ラマラで、ニザール・バナトの殺害の責任を明らかにすることを求めるスタンディングが行われた。
- ・占領軍はベイタの市民を逮捕した。
- ・カタールの大使がガザに到着した
- ・カルキリヤで、占領軍によって、青年が銃撃された。
- ・イスラエルの治安代表団が、ガザの開発について話し合うためにカイロに向かった。
- ・獄中のハレダ・ジャラールの娘、スハ・ジャラールの死去
- ・来週の水曜日にテルアビブにUAEの大使館が開館する
- ・人民党は、党からの関係のナスリ・アブジャイスの党員資格を停止したと発表



投稿日：2021年7月16日（最終更新日：2021年7月17日）
時間：00:54

ベツレヘム-マーン-国連の報告によると、イスラエルの占領当局は、今年初の初め以来、西岸にある少なくとも474のパレスチナ人所有の建造物を取り壊したとのことです。

パレスチナ自治区の人道問題調整事務所（OCHA）が発行した報告書は、取り壊された建物のうち150棟がドナーから資金提供を受けたと述べています。

彼は、取り壊しが約359人の子供を含む656人のパレスチナ人の避難につながったと説明しました。これは、対

象となる建物の数が32%増加し、ドナーが資金提供する建物を対象として約145%増加したことを示しています。2020年まで。

報告書は、イスラエル軍がヨルダン渓谷のラスアルティン牧歌的コミュニティで少なくとも49の建物を没収した後、84人のパレスチナ人が7月14日に家を失ったことを示した。

報告書によると、避難民は、53人の子供と14人の女性を含む13のパレスチナ人家族から来ており、彼らはまだ集会にとどまっているが、強制的に連れ去られるリスクが高い。

おいしいパレスチナ

パレスチナのモロヘイヤの作り方

AfnanAbu Mufreh 著 - 最終更新日: 2017年5月9日
06:22 関連

パレスチナのモロヘイヤの調理方法

チキンでモロヘイヤを作る方法

1.1 作り方パレスチナモロヘイヤ

1.2 鶏肉を使ったパレスチナモロヘイヤの作り方

1.3 ドライモロヘイヤの作り方

モロヘイヤは多くの地域、特にパレスチナで人気のある料理の一つで、おいしい味、調理のしやすさ、そして多くの栄養素が含まれています。繊維、ミネラル、ビタミンなど、体の健康と安全に必要であり、準備できることを知っているいくつかの方法で、緑色に調理したり、乾燥させたり、単独でメインディッシュとして提供したり、提供したりすることもできます。この記事ではパレスチナのモロヘイヤの作り方を紹介します。

パレスチナのモロヘイヤ成分の作り方: 1キログラムの緑のモロヘイヤの葉。つぶしたにんにく6片。ドライコリアンダー小さじ4杯。チキンスープ4カップ。コーン油小さじ4。ギー小さじ2杯。

作り方: モロヘイヤをよく洗い、水気を切り、細かく刻みます。ガスの入った鍋にスープを入れ、火にかけ、モロヘイヤを加えてよくかき混ぜます。ギーをガスのフライパンに入れ、コリアンダーとニンニクを加え、焦げ目がつくまでよくかき混ぜます。前の混合物をモロヘイヤに加えてかき混ぜ、火が通るまでガスで調理した後、料理に入れて温めます。

鶏肉の材料でパレスチナのモロヘイヤを作る方法: 細かく刻んだ鶏肉のキログラム。米のキログラム。モロヘイヤのキログラム。細いスパゲッティの1/4カップ。塩大



の水。

作り方: ご飯をぬるま湯に浸し、1時間放置します。鶏肉を洗ってよく洗い、鍋にガスを入れ、適量の水を加えて茹でます。鶏肉の半分を皿にのせ、モロヘイヤをスープに入れ、にんにくとトマトを加えて10分放置します。ガスのフライパンに油を入れ、細いスパゲッティを焦がし、ご飯、黄色い小麦粉、塩を加えて少し炒め、適量の水を加えてそのままにします。それは調理されています。ガスでモロヘイヤを上げ、火が通るまで15分ほど放置します。鶏肉をトレイに入れ、オーブンに入れ、茶色のままにします。ご飯をお皿にのせ、モロヘイヤとチキンをのせて盛り付けます。

乾燥したモロヘイヤの作り方材料: 刻んだモロヘイヤ2カップ。刻んだコリアンダーの1/4カップ。植物油小さじ2。にんにく5片。チキンスープ3カップ。塩大きじ半分。準備方法: アオイ科の植物を冷水で洗い、よく水気を切ります。フライパンで油を熱し、にんにくを加えてよく炒め、コリアンダー、チキンブロス、塩を加え、10分煮てからモロヘイヤを加えてよくかき混ぜる。沸騰させておきます。サービングプレートにのせて、熱くサーブします。

守ろう！オリーブの木を カンバのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号: 00960-2-303500番
名称: オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番): 〇九九店 (099)
預金種目: 当座
口座番号 0303500



ヨッシ・コーエンがイスラエルで日本のソフトバンクテレコムを率いる

投稿日：2021年7月9日(最終更新日：2021年7月9日時間：22:38)

ベツレヘム-マーン-日本の電気通信グループソフトバンクコーポレーションは、「グローブスビジネス」によると、イスラエルへのグループの投資の管理に参加するために、イスラエルの諜報機関の元責任者、モサド、ヨッシコーエン、59歳の任命を発表した。

「ソフトバンクは、テクノロジーへの投資に対する新しいアプローチを開拓し、新興テクノロジーチャンピオンの世界最大のエコシステムを構築しました」とコーエン氏はグローブスビジネスに語った。

「イスラエルの最先端技術と起業家文化は、Sofin Bankの投資ビジョンに自然に適合しており、この地域および世界中の新興企業の成長を支援できることを楽しみにしています」と彼は付け加えました。

「コーエン氏に会ったとき、私たちは一緒に働く機会にすぐに興奮しました」と、SofitBankのマネージングパートナーであるYanniBibilisはGlobesBusinessに語った。彼は一般的にイスラエルの業界とのつながりが深く、私たちの焦点となることができる有名な起業家であり創設者でもあります。」

「イスラエルの産業との関係と国際関係を横断する能力が、これらのグローバルな起業家をAIエコシステムに接続するのを根本的に支援するのに役立つことは明らかです」と彼は付け加えました。

コーエンがこの協定に参加することは注目に値します。イスラエルのテクノロジー産業にとって注目すべき年に、世界のテクノロジーセクターに投資する最大の企業の1つです。

イスラエルのテクノロジー新興企業は、過去数月にわたる一連の新規株式公開を通じて、今年、記録的な投資を呼び込むことに成功しました。ソフトバンクグループは、Redez Databasesの株式の取得など、イスラエルのテクノロジー企業との多数の投資契約に署名しました。レモネード保険と証券取引所に登録

今号の内容

ニザール・バナの虐殺と自治政府の危機・・・1

ベネット政権の混乱・・・2

入植地への対峙とバナ殺害の影響・・・4

歴史的ブロックの大家の登場を待つ・・・5

占領軍によるUAWC本部の封鎖・・・7

ハリダ・ジャラルと娘スハの死・・・9

ガッサン・カナファー二暗殺49周年・・・10

パレスチナの詩・・・12

パレスチナ日誌・・・13

おいしいパレスチナ・・・15

元モサド長官ソフトバンクのイスラエル代表に・・・16



7月6日PFLP総司令部派書記長アハマド・ジブリル氏死去

ジブリルは、1938年に委任統治領パレスチナのヤッファ近くの町ヤズールで[4]、パレスチナ人の父親とシリア人の母親の間に生まれました。他の情報源によると、彼は1935年にラムラ市で生まれました。[2]彼の家族は1948年にシリアに移り、そこで育ちました。彼はホムス軍事アカデミー[2]を卒業し、1956年から1958年までシリア軍に勤務し、共産主義者の容疑者として追放される前に船長に昇進しました。1959年に彼はパレスチナ解放戦線を設立しました。1965年以降、彼はヤーセル・アラファトを含むパレスチナ国民解放運動(ファタハ)の指導者と緊密に協力しました。[2]1967年に彼はジョージ・ハバシュと合流して、アラブ民族主義と左翼イデオロギーを組み合わせた武装運動であり、アラファトと対立していたパレスチナ解放人民戦線を設立した。